

阪神・淡路大震災から28年

2023.1.16 校長 西谷 秀幸

1995.1.17 (写真)。今から28年前の1995 (平成7)年1月17日に、大きな出来事がありました。一体何でしょうか。



1995 (平成7)年1月17日午前5時46分。兵庫県の神戸という、大きな街の近くで大きな地震があり、神戸を中心に、6434人が亡くなり、25万棟の家が壊れました。この大きな地震と地震による被害のことを「阪神・淡路大震災」と言います。

朝の5時46分ですから、まだ、多くの人たちが寝ていました。だから、大きなビルも倒れたり壊れたりしました。1階で寝ていて、家がつぶれて亡くなった人もいました。その後、街中に火事が広がり、たくさんの建物が焼けてしまいました。



それだけではありません。なんと、高速道路も壊れてしまったのです。そのため、車を運転していたときに高速道路が壊れて亡くなった人もいました。あるバスの運転手さんは「地震だ」と思って急ブレーキをかけて止まった瞬間、運転席の下の高速道路が崩れ落ち、バスの後ろ半分だけが奇跡的に引っ掛かっていて助かりました。



皆さんは、当然、生まれていないから、この阪神・淡路大震災のことを知らない人も多いかもしれないし、校長先生が去年、少しだけ話をしたけど、覚えている人はいますか。

この地震は、神戸という関西地方の出来事なので、皆さんは関係ないと思っている人が多いかもしれませんが、実は、皆さんの住む東京も、30年以内に大きな地震が起きる可能性が70%、つまり、皆さんが活着ているうちに、東京で大きな地震が起きると言われています。

神戸の街と同じように、東京にもたくさんの方が住み、たくさんの家がありますから、もしも東京で大地震が起きたら、阪神・淡路大震災のように家がつぶれたり火事がおきたりして、2万3千人が亡くなってしまわないか…という心配もされています。

地震はとても怖く、いつ起きるか分かりません。だから、過去にあった大きな地震や被害を忘れないようにして、いざというときに備えていく必要があります。

皆さんの家でも防災グッズはそろっているでしょうか。また、いざというときの約束事が決まっているでしょうか。家で、ぜひ、確認してみてください。

これで朝会のお話を終わります。

(裏面に「先生方へ」があります)

〈先生方へ〉

先日は、3学期第1週、お疲れさまでした。3学期は、あと49日。6年生以外は50日をきりました。1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」と言います。1つ1つ大事にしながら次の学年に向け、残りの日々を過ごすように御指導ください。土曜日には、学校公開と道徳授業地区公開講座があります。準備をよろしくお願いします。また、火曜日の教育会一斉部会では、橋本先生が外国語の研究授業を代表で行います。授業を通して、今週もお互いに学び合っていきましょう。

さて、今日の朝会では、毎年のように取り上げている「阪神淡路大震災」を話題にしました。当時、神戸に住んでいた友人は「コンセントがささったままコードが切れてテレビが飛んできた。布団にくるまって何もできなかった。地震が収まったら、家にある一番高価な30万円の絵だけを抱えて外に飛び出した。」と、当時の慌てている様子を話してくれました。また、避難所開設システムが浸透していなかったこともあり、避難所となったある小学校では、心ない人たちが教室を占領して、授業の再開にかなり時間がかかったという話も学校関係者から聞きました。

阪神淡路大震災から四半世紀（28年）が経ちましたが、東日本大震災と合わせて風化されないように子供たちに伝えていくとともに、いざというときに備えて、教訓を生かしていかなければなりません。首都直下地震が、今後30年以内に起きる可能性が70%とされている東京ですから、いざというときのために、特に都市型の地震の教訓を阪神・淡路大震災から得ていきましょう。

【資料】 阪神・淡路大震災について

- 阪神・淡路大震災は1995年（平成7年）1月17日（火）5時46分52秒に発生した兵庫県南部地震による大規模地震災害である。淡路島北部沖の明石海峡（深さ16km）を震源として、マグニチュード7.3を記録した。
- 被害は兵庫県を中心に近畿圏の広域であった。特に震源に近い神戸市市街地（東灘区・灘区・中央区〔三宮・元町・ポートアイランドなど〕・兵庫区・長田区・須磨区）の被害は甚大で、日本国内のみならず世界中に衝撃を与えた。
- 死者:6,434名、行方不明者:3名、負傷者:43,792名は、戦後に発生した地震災害としては東日本大震災に次ぐ規模である。死者の80%相当（約5,000人）は木造家屋が倒壊し、家屋の下敷きになって即死した。特に1階で就寝中に圧死した人が多かった。
- 関東大震災では、木造住宅が密集する地域での火災が被害を大きくしたため、主に焼死により日本の災害で最悪となる約10万人の死者を出した。また、東日本大震災では津波による水死を中心に1万5千人を超える戦後最悪の死者を出した。しかし、阪神・淡路大震災は断層沿いに被害が集中して、被災地域が狭かったものの、冬季の早朝に発生したため自宅で就寝中の者が多く、圧死を中心に6千人を超える死者を出した。